

# モンテーニュ Montaigne, Michel de 1533 ~ 1592

フランスの思想家、政治家。

フランス西南部のポルドーに近いモンテーニュ(モンターニュともいう)の城館に生まれる。先祖はエーケム姓を名乗り、曾祖父ラモンの代にモンテーニュの城館を領地ごと買い取った貴族であった。父ピエールは教養人でありながら、ポルドー市長にもなった人物である。貴族の慣習から里子に出された彼は、5歳ごろ城に戻って教育を受けた。ポルドー大学、トゥールーズ大学では法律、哲学などを学び、21歳で御用金裁判所の裁判官になり、3年後ポルドー高等法院に移って、16年間に司法・立法・行政における国王を代表する機関で働いた。この間に彼は、生涯の友であり教養と人格を備えた人文学者ラ・ボエシーの知遇を得、また結婚もしている。父親の遺産を相続した37歳のとき、裁官職を友人に譲り、領地モンテーニュに隠退した。

彼は39歳から47歳にかけて『エッセー』を執筆し、2巻本を1580年にポルドーで出版した。その後イタリアなどを回る約1年半の大旅行に出るも、途中の1581年、ポルドー市長に選ばれ帰国した。当時のポルドーは宗教戦争の渦中にあり、新教、旧教の勢力が拮抗していたが、国王の名代として公正無私の人柄と率直誠実な行動で両派の調停役を務めた。1585年に市長を辞し、翌年から『エッセー』の執筆を再開する。1592年モンテーニュの城において59歳で生涯を閉じた。

## Great Books 20 エッセー(Essais)

モンテーニュの生前、1580年に第1巻(57章)及び第2巻(37章)が、1588年に加筆した第1 - 2巻と併せて第3巻(13章)が出版された。モンテーニュは亡くなるまで1588年版の余白に削除・訂正・補加をおこない、これが「ポルドー本」といわれる現在の『エッセー』の基本テキストとなっており、この手撮本はポルドー市立図書館に所蔵されている。

書名となっている「エッセー」はフランス語の *essayer*(エセイエ)から来ており、試みる、吟味するという意味である。これをモンテーニュ自身は「わたしがおこなっている自分の判断力のためし(エッセー)についても、わたしはあらゆる種類の機会を利用する。それがわたしにすこしもわからない問題の場合、それにたいしてもわたしは、だいたひ遠くから瀬にさぐりを入れ、判断力をためしにかける(エセイエ)。」(第1巻50章)と記述している。モンテーニュは、判断力という人間精神の能力を実際に働かせることが重要であると考え、「エッセー」とは日常生活で生起するさまざまな事柄や書物や思想について、自分の判断力を駆使して意見を述べることであった。つまり本書は、慣行に依存した先入観や常套的論理を排し、自分にとって明白、確実と思われるものを吟味した、彼自身の判断と生活の試み、吟味の記録といえるのである。

本書には古代ギリシア・ローマの多くの思想家や文人の著作からの引用が満ちあふれている。それはモンテーニュ自身の精神の多様性である。執筆を始めたときの彼はストア派に興味を示し、セネカへの言及とストイシズムの体現者として小カトーを賛美したが、その後『対比列伝』にあるユリウス・カエサルなどに興味を移して、最後にはソクラテスが人間の達しうる最高の段階だと考えた。このようにモンテーニュは古代の思想家を考察したが、彼の考察の中心にあるのは、常に進化発展を遂げた自己認識であって、ソクラテスの考えに従うことではなかった。

モンテーニュはフランス精神に特有な柔軟で多様な人間観察の視点を有しており、彼のこうした姿勢はモラリストの伝統の端緒をなすとともに、16世紀から17世紀のデカルトやパスカルに連なるフランス哲学思想が展開していく上で重要な土壌を形成したのである。

## Key Phrase たしかに、人間というものは、驚くほど空虚な、多様な、変動する存在だ

原文は *Certes, c'est un subject merveilleusement vain, divers, et ondoyant que l'homme.* である。(第1巻第1章「さまざまの方法でひとは同じ結果に到達する」)

自己を通して人間を探究しようとしたモンテーニュの、人間に対する基本的認識を示したものである。『エッセー』の魅力とは、「人間とは何か」ということについて、どのような推論・論証を展開し、それに基づいてどのような命題・概念をつくりあげ、最終的な思考や断定に至るのか、その思考の過程を仔細に点検するこ

とであるが、このフレーズはその原点に位置するものである。

## ◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 エセ - 1 ~ 6 (岩波文庫ワイド版) / 原二郎(訳)  
岩波書店 1991年刊 <954AA / 211 / 1~6>
- 📖 モンテ - ニュ随想録1 ~ 7 (モンテ - ニュ全集1 ~ 7) / 関根秀雄(訳)  
白水社 1982 ~ 1983年刊 <132.7 / 15 / 1a~7a>
- 📖 世界の名著 19 モンテ - ニュ / 荒木昭太郎(編)  
中央公論社 1967年刊 566p <080 / 5 / 19> 資料番号 12784377  
\*エセ - <抄訳>
- 📖 Great books of the Western World vol.25 Montaigne / Robert Maynard Hutchins(ed.)  
Encyclopaedia Britannica 1989年刊 543p <080 / G / 25> 資料番号 20257408
- 📖 Les Essais(texte du manuscrit de Bordeaux) Oeuvre Complètes de Michel de Montaigne 1 ~ 6  
/ A. Armaingaud(ed.)  
Louis Conard 1923年刊 <132.7 / M / 1~6>

## ◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 モンテーニュ(中公新書) / 荒木昭太郎(著)  
中央公論新社 2000年刊 221p <132.7KK / 103> 資料番号 21336664
- 📖 モンテ - ニュは動く / ジャン・スタロバンスキ - (著) 早水洋太郎(訳)  
みずす書房 1993年刊 562p <132.7CC / 102> 資料番号 20638920
- 📖 ミシェル城館の人1 ~ 3 / 堀田善衛(著)  
集英社 1991 ~ 1994年刊 <913.6Z / 350 / 1~3>
- 📖 モンテ - ニュとパスカルとのキリスト教弁証論 / 前田陽一(著)  
東京創元社 1989年刊 388p <135.2Z / 105> 資料番号 20296372
- 📖 モンテ - ニュ遠近 / 荒木昭太郎(著)  
大修館書店 1987年刊 262p <132.7W / 18> 資料番号 12303871
- 📖 人類の知的遺産 29 モンテ - ニュ / 荒木昭太郎(著)  
講談社 1985年刊 408p <280.8K / 13 / 29> 資料番号 10497345
- 📖 モンテ - ニュの<エセ - > / ピエ - ル・ヴィレ - (著) 飯田年穂(訳)  
木魂社 1985年刊 270p <132.7S / 16> 資料番号 12303855
- 📖 永遠普遍の人モンテ - ニュ / ピエ - ル・ミシェル(著) 関根秀雄, 斎藤広信(共訳)  
白水社 1981年刊 304p <950.2N / 228> 資料番号 12753638
- 📖 モンテ - ニュ(岩波新書) / 原二郎(著)  
岩波書店 1980年刊 216p <132.7L / 12> 資料番号 10211704
- 📖 モンテ - ニュ論(筑摩叢書) / ミシェル・ピュトル(著) 松崎芳隆(訳)  
筑摩書房 1973年刊 276p <132.7D / 10> 資料番号 10211670
- 📖 モンテ - ニュ論(岩波文庫) / アンドレ・ジイド(著) 渡辺一夫(訳)  
岩波書店 1939年刊 109p <132.7J> 資料番号 20315560